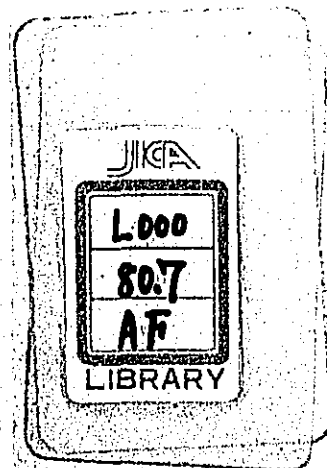


(農林)50-5

昭和50年度 農林業開発協力事業計画の概要

昭和50年6月

国際協力事業団



国際協力事業団	
受入 月日 84. 5. 25	L000
登録No. 07710	80.7
	AF

昭和50年度農林業開発協力事業計画の概要

目次

1. 技術協力プロジェクトの概要

(1) センター方式のプロジェクト

- ア. インド； 農業普及センター
- イ. シリア； 鶏病予防センター
- ウ. スリランカ； 高等水産講習所

(2) 村落開発方式のプロジェクト

- ア. インドネシア； ランボン農業開発
- イ. ラオス； ヲゴン農業開発
- ウ. インド； グンダカラニア農業開発
- エ. スリランカ； デワフワ村落開発
- オ. ネパール； シマナカプール農業開発

(3) モデル開発方針のプロジェクト

- ア. インドネシア； 西部ジャワ食糧増産
- イ. インドネシア； タジユムパイロット
- ウ. フィリピン； パイロット農場
- エ. マレーシア； 稲作機械化
- オ. タイ； 養蚕開発

(4) 教育・研究方式のプロジェクト

- ア. ヴィエトナム； カントー大学農学部
- イ. インドネシア； 農業研究
- ウ. 韓国； 農業研究

(5) 一次産品開発方式のプロジェクト

- ア. タイ； 大臣開発
- イ. タイ； えび養蚕開発

(6) 新規プロジェクト

- ア. タンザニア； キリマンシエロ農業開発
- イ. ブラジル； リベイラ河農業開発
- ウ. バングラディシュ； 中央農業普及研究所
- エ. イラン； ミスラン農業開発
- オ. インド； 農業研究
- カ. ベルギー； 水産加工センター

JICA LIBRARY



1027396[1]

2. 50年度の調査計画

(1) 農業協力事業関係調査

ア. 事前調査

(ア) 中隔米池成プロジェクトファインディング調査

(イ) 予備調査

- ⑤ サウジアラビア； 農業開発
- ④ タイ； 農業開発
- ⑥ インドネシア； 南スラウェシ農業開発

イ. 実施計画調査

- (ア) フィリピン ; カガマンバレー農業開発
- (イ) インドネシア ; 南スラウェシ農業開発
- (ウ) インドネシア ; 養蚕開発

ウ. 実施調査

- (ア) フィリピン ; カガマンバレー農業開発
- (イ) インドネシア ; 南スラウェシ農業開発
- (ウ) インドネシア ; ウンブブンブアン農業開発
- (エ) タンザニア ; キリマンシエロ農業開発

エ. 巡回指導

- (ア) ブラジル ; リバイラ河農業開発
- (イ) タンザニア ; キリマンシエロ農業開発
- (ウ) バングラディシュ ; 中央農業普及研究所
- (エ) インドネシア ; ランボン農業開発
- (オ) タイ ; 養蚕開発
- (カ) 農業土木分野
- (キ) 栽培分野

オ. 計画打合せ

カ. エバリュエーション

キ. 基礎調査

- (ア) 計画基準作成調査
- (イ) 開発基礎調査
- (ウ) 開発実態調査

(エ) 現地研修調査

(2) 開発技術協力事業関係調査

ア. 事前調査

- (ア) フィリピン ; 飼料作物開発
- (イ) インドネシア ; 浅海養殖開発
- (ウ) メキシコ ; 畜産開発
- (エ) フィリピン ; 木竹加工開発
- (オ) その他

イ. 実施計画調査

- (ア) タイ ; どうもうこし開発
- (イ) マダガスカル ; 畜産開発
- (ウ) その他

ウ. 実施調査

- (ア) ブラジル ; 一次産品開発
- (イ) マダガスカル ; 畜産開発

エ. 巡回指導

- (ア) タイ ; 一次産品開発
- (イ) タイ ; えび養殖開発

オ. 計画打合せ

- (ア) マダガスカル ; 畜産開発

(3) 開発調査事業関係調査

ア. 事前調査

- (ア) ベルギー ; 農業開発
- (イ) インドネシア ; イリアン林業開発

イ. 実施調査

- (ア) インドネシア ; ラレムアブンカムがい計画

- (イ) ベルギー；漁業基地
- (ウ) ガーナ；農業開発
- (エ) フィジー；林業開発
- (オ) 北イェーメン；農業開発

ウ 資源調査

- (ア) メキシコ、スリランカ、フィリピン 海洋資源開発

（ウ） 開発協力事業関係調査

ア 開発基礎調査

(ア) 1次調査

- ㊦ スリランカ；農業開発
- ㊧ 北ヴェトナム；とうもろこし開発
- ㊨ ブラジル；ペレン地政森林造成
- ㊩ エクアドル；農業開発
- ㊪ インドネシア；コタピナン森林造成

(イ) 2次調査

- ㊦ エクアドル；農業開発
- ㊧ コロンビア；農業開発
- ㊨ マダガスカル；アトニーベ畜産開発
- ㊩ メキシコ；北部農業開発
- ㊪ フィリピン；パンタパンガン森林造成
- ㊫ パプアニューギニア；森林造成
- ㊬ インドネシア；コタピナン森林造成

イ 開発計画調査

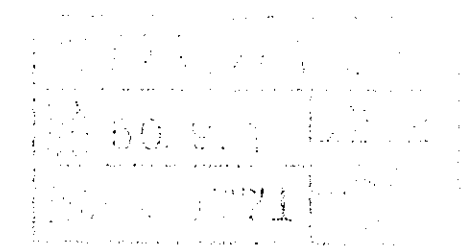
- (ア) ブラジル；セラード地政農業開発
- (イ) タイ；とうもろこし開発
- (ウ) フィリピン；パンタパンガン森林造成
- (エ) パプアニューギニア；森林造成

ウ 投資調査等調査

3. 50年度の技術指導事業計画

- (1) 民間企業等技術指導
- (2) 現地従事技術者等受入研修

4. 50年度の専門家養成確保事業



1. 技術協力プロジェクトの概要

(1) センター方式のプロジェクト

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	協力の内容	50年度までの主な事業予定
インド	農業普及センター マンティアセンター コホリセンター	7年間 (43年12月13日) (50年12月12日)	延 21人 アドバイザー 1 ヴィアラ 2 アラ 7 マンティア 2 コホリ 5 現在 9人 アドバイザー 1 マンティア 5 コホリ 3	農業生産の増大を図るため次の協力を行う。 ① 農業技術の実用試験および普及 ② 農業技術者・農民の訓練 ③ 農業機械の実用試験および普及 ④ なお、コホリ及びヴィアラ農業普及センターにおいては、それぞれ次の協力を 行っている。 イ. コホリ農業普及センター周辺部のコ ラバ地区開発計画（園芸型農業技術 の普及、農業機械化の促進） ロ. ヴィアラ農業普及センター周辺部の ウカイダム受益地開発計画（調査計 画に対する技術的助言指導）	① 栽培に係わる巡回指導調査 団の派遣 時期； 6月下旬より10日 間 団員； 4名 目的； 栽培に係わる指導助 言
イシリア	鶏病予防センター	5年間 (47年11月16日) (52年11月15日)	延 6人 現在 3人	シリアの養鶏振興に資するため、ダマスカス市に設置の鶏病センターにおいて次の 協力を行う。 ① 鶏病の診断、予防、調査 ② 技術者の訓練	① 短期専門家の派遣 時期； 10月中旬より 14日間（若付） 12月上旬より 3ヶ月（2名）

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	協力の内容	50年度の主な事業予定
ウ. スリ・ランカ	高等水産講習所	4年間 (49年4月16日) 53年4月15日)	延 2人 現在 2人	③ 音 反 ④ ワッパン製造に対する助言 高等水産講習所において訓練等に関する次の協力を行う。 ① 高等学校卒業程度の訓練生に対する漁業技術訓練 ② 高等学校卒業程度の訓練生に対する漁船の操縦技術の訓練 なお、この訓練は、日本政府が無償協力した65トンのオートロール練習船を使用して実施される。	① 巡回指導調査団の派遣 (時期等は未定)

(2) 村落開発方式のプロシエフト

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	協力の内容	50年次の主な事業予定
ア. インドネシア	ランボン農業開発	5年間 (47年11月14日 5 52年11月13日)	延 22人 現在 14人	南スマトラのランボン川の農業開発を目的として、次の計画に対する協力を行う。 ① 農業普及センターの設置(農業技術の改善、普及員の訓練、調査助官等) ② 水田農業開発計画 中部ランボンの10郡(20000ha)を対象に普及農場(4ノカサ)を拠点とした改良稲作の普及、農民組織の育成活動 ③ 畑作農業振興計画 中部および南部ランボンの5郡(5000ha)を対象にした改良畑作の普及、農民組織の育成活動	① 巡回指導調査団の派遣 時期：1月より5日間 団員：4名 目的：技術的側面の指導 助言
イ. ラオス	タゴン農業開発	5年間 (45年4月24日 5 52年4月23日)	延 16人 現在 2人	ヴェンチマン平野タゴン地区農業開発のため、アジア開発銀行と協議し、次の協力を三行う。 1. わが国が調査設計を行い、主にアジア銀行が融資しているタゴン農業開発計画地区内(800ha)におけるパイロット農場(100ha)の設置 イ. 土地基盤整備 ロ. 農業技術の改良	① 計画打合せ調査団の派遣 時期：7月上旬より15日間 団員：4名 目的：今後2年間の協力方針の検討

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	協力の内容	50年度の事業予定
ウ. イ. ント	ジンダカラニア農業開発	5年間 (45年2月19日 50年8月18日)	延 10人 現在 8人	ハ. 地区内農民の営農指導(入植訓練を含む) ニ. 資機材の供与 ジンダカラニア地域、パラルコート地区(約30,000ha)の農業および村落開発計画に対し、次の協力を行う。 ① 同地区の農業村落開発計画に対する総合的な助言指導 ② パラルコート総合農場(130ha)における実行試験と技術者の訓練 ③ パイロット地区における村落開発について協力	① エバレーション調査団 時期: 6月中旬 団員: 4名 目的① 協力内容の実績検討及び評価 ② 協定期限後の協力について
エ. スリ. ランカ	デワフワ村落開発	5年間 (45年10月19日 50年10月18日)	延 12人 現在 3人	セイロン中央部乾燥地帯にあるデワフワ村落上流部(水田223ha、畑81ha)の村落開発計画に対して次の協力を行う。 ① 土地基盤整備 ② 営農技術の改善および普及 ③ 農民組織の育成および生活改善等	① エバレーション調査団の派遣 時期: 7月上旬より2/日程度 団員: 4名 目的: Projectの評価

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	協力の内容	50年度の事業予定
オネパール	シマナカプール 農業開発	予備協力期間 3年間 〔46年11月26日〕 ↓ 〔47年11月6日〕 本協力期間 5年間 〔48年11月7日〕 ↓ 〔54年11月6日〕	延 13人 現在 7人	シマナカプール地域農業開発計画に対する予備協力として、次の協力を行い、続いて本協力に移行する。 ① ハルデ・ス普及農業(40ha)における改良農業技術導入・展示(一部普及) ② ラフティ模範農場(8ha)における改良農業技術の導入・展示(一部普及)	① 専門家の派遣 時期；6月～9月 専門家；5名 ② 短期専門家 時期；11月 専門家；5名

(3) モデル開発方式のプロジェクト

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	協力の内容	50年度の事業予定
インドネシア	西部シマフ食糧増産 (アフターケアを実施中)	本協力 6年間 〔43年5月26日〕 ↓ 〔49年5月25日〕 アフターケア 2年間 〔49年5月26日〕 ↓ 〔51年5月25日〕	延 14人 現在 2人	西部シマフの食糧増産に資するため、次の協力を行った。 ① 地域農民の所得向上を図るチヘア・タニマール計画(1,026ha) ② 農業の近代化を図る普及農場設置計画 ③ 技術者の訓練(農業機械化、種子生産検査) 現在、上記業務のアフターケアを実施中である。	① 専門家の派遣予定 時期；未定 専門家；短期3名

国名	プロジェクト名	協力機関	専門技術者数	協力の内容	50年度の事業予定
イ. インドネシア	マシユムパイロット	5年間 46年2月16日 51年2月15日	延 6人 現在 2人	<p>アジア開発銀行が融資している中部シヤワ・マシユムかんがい計画地(3,600ha)の中に220haのパイロット地区(水田182ha, 畑28ha, 計220ha)を抜く。次の協力を行う。</p> <p>① 土地基盤整備 ② 近代的農業技術と水管理の普及指導等</p>	<p>① エバレーション調査地の派遣 時期: 10月中旬より35日 人員: 3名 目的: 協力実績の評価</p>
ウ. フィリピン	パイロット農場	本協力 5年間 (44年6月16日 47年6月15日) アフター 2年間 (45年6月16日 51年6月15日)	延 16人 (ミントロ 8人 レイテ 8人) 現在 5人 (ミントロ 3人 レイテ 2人)	<p>① ミントロ島ナウハン地区(1,200ha)およびレイテ島サニゲールアララン地区(1,100ha)を対象にかんがい排水施設の建設, 近代的農業技術の導入乾燥貯蔵米のためのライスセニヤー建設を含む稲作モデル田の建設計画の調査設計</p> <p>② 両地区に設置されたパイロット農場(100ha)において, 次の協力を行った。</p> <p>イ. 土地基盤整備 ロ. 稲作技術の改善および普及 ハ. 技術者等の訓練</p> <p>現在, 上記業務のアフターを実施中である。</p>	<p>① 栽培に係わる巡回指導 時期: 7月より10日間 人員: 4名 目的: 栽培に係わる技術指導</p>

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	協力の内容	50年度の事業予定
エ. マレーシア	稲作機械化	5年間 (45年12月29日 50年12月28日)	延 3人 現在 1人	ムダ河かんがい計画地域の水稲二期作化促進に資するため、ブンボンリマの農学校においての協力を行う。 ① 稲作機械化に関する農業普及員の研修等 ② 稲作機械化に関する中堅農氏の訓練	① エバレーション調査団の派遣 時期：5月上旬 団員：3名 目的：協力実績の評価
オ. タ	養蚕開発計画	6年間 (44年3月3日 52年3月6日)	延 22人 現在 5人	東北タイの養蚕開発のための次の協力を行う。 ① コーラート養蚕研究訓練センター設置（近代的養蚕技術の確立、技術者の訓練） ② 4支場の設置（改良蚕種、桑苗の製造配布） ③ 特定集落に対する近代的養蚕技術の普及 ④ 製糸業の開発に関する技術的指導	① 計画打合せチーム 時期：7月初旬 団員：3名 目的：才三次協力に係り る具体的協力計画 の打合せ ② 巡回指導調査団の派遣 時期：3月上旬より2ノ 日間 団員：4名 目的：技術的指導助言

(4) 教育・研究方式のプロジェクト

国名	プロジェクト名	協力期間	専門技術者数	協力の内容	50年度の事業予定
ア. ウェトナム	カントー大学農学部	6年 間 (45年3月7日 51年3月6日)	延 1人 現在 0人	メコンデルタの中心、カントー市にあるカントー大学農学部において次の協力を行う。 ① 農学分野における研究と教育 ② 畜産学の分野における研究と教育 (現在ヴェトナムの債務持ち)	
イ. インドネシア	農業研究	5年 間 (45年10月23日 50年10月22日)	延 7人 現在 4人	ボゴール中央農業研究所において作物保護に関する次の共同研究に協力する。 ① 主要作物主要病害虫の生態と防除に関する研究 ② 主要作物主要病害虫およびウイルス病の媒介昆虫の発生予測に関する研究 ③ 食用作物の生理障害および主要病害虫に関する植物生理学的研究	① エバレーション調査団派遣 時期 ; 6月上旬 団員 ; 7名 目的 ; 協力実績の評価と協定終了後の協力方針の検討。
ウ. 韓 国	農業研究	5年 間 (49年6月7日 54年6月6日)	延 7人 現在 1人	韓国のお米増産および農民所得の向上を図るため、水稲、普通作物及び野菜の研究に関し次の協力を行う。 ① 作物安全多収性品種に関する研究 ② 水稲低位生産地の上級肥料に関する研究	① 計画打合せチーム(1次)の派遣(実施済) 時期 ; 51年1月10日商 団員 ; 7名 目的 ; 51年度協力細部実施計画打合せ

国名	プロジェクト名	協力期間	専任教員数	協力の内容	50年度の事業予定
				<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 作物の栄養、水分生理生態に関する研究 ④ 生産基盤造成のための土壌、肥料の総合研究 ⑤ 除草剤に関する研究 ④ 野菜の生産増大及び品質向上に関する研究 ⑦ 作物保護に関する基礎および応用研究 	

(5) 一次産品開発方式プロジェクト

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	協力の内容	50年度の事業予定
タイ	大豆開発	5年間	延 2人 現在 1人	タイ北部のチェンマイのメシヨ農試を中心として次の協力を行う。 ① 大豆の増産、品質改善に関する試験、研究及び展示普及 ② 流通機構の整備、改善	① 巡回指導調査団の派遣 時期：51年2月より35日間 団員：5名 目的：技術的課題の指導、助言
タイ	エビ養殖開発	3年間 52年5月25日 51年3月25日	延 2人 現在 1人	タイ国のエビ養殖業の振興を図るため、次の協力を行う。 ① 在来養殖方法の改良を目的としたパイロットファームの設立 ② パイロットファームで使用する種苗の生産に関する応用研究 ③ タイ国エビ養殖開発計画に関する技術的指導助言	① 巡回指導調査団の派遣 時期：10月上旬より12-25日間 団員：6名 目的：エビの種苗生産に重点をおいた技術的課題の指導、助言

(6) 新規プロジェクト

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	協力の内容	50年度の事業予定
ア. タンザニア	キリマンジャロ 農業開発	2年間 { 47年12月2日 } } { 49年12月1日 } (R/D協力)	延 2名 現在 2名 (50年度内に 長期 2名 短期 5名 を派遣の予定)	キリマンジャロ州の農業生産を増大するために次の協力を行う ① リマング研究所を中心とする試験研究協力 ② キリマンジャロ州の水資源開発調査協力 ③ キリマンジャロ州における農業調査協力	① 実施調査団の派遣 時期：10月上旬より5日間 団員：7名 目的：協力の具体的計画の立案及び水資源調査、農業調査の指導助言
イ. ブラジル	リベイラ河農業開発	5年間 { 50年3月11日 } } { 55年3月10日 }	延 2名 現在 1名 (50年度内に長期7名を派遣の予定)	リベイラ河流域の農業生産を増大するために次の協力を行う。 ① リベイラ河流域の開田化にともなう稲作栽培技術の普及 ② 農業開発セミナーにおける研究協力	① 計画打合せチームの派遣 時期：7月上旬より10日間 団員：3名 目的：協力の具体的内容についての協議
ウ. バンブレイシユ	中央農業普及研究所	2年間 { 50年3月14日 } } { 52年3月13日 }	(50年度内に5名派遣の予定)	わが国の無償協力で設立が予定されている中央農業普及研究所におい、次の協力を行う。 ① 農業普及技術の指導助言 ② 稲作、畑作栽培技術の指導助言 ③ 農業機械技術の指導助言	① 巡回指導調査団の派遣 時期：8月上旬より4～5週間 団員：4名 目的：技術の指導助言と協力計画についての打合せ

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	協力の内容	50年度の事業予定
イラン	シスタン農業開発	未定	延 3名 現在 0名 50年度内に3名派遣の予定	シスタン地域農業開発のため、サハブ農業研究センターにおいて次の協力を行う。 ① かんがい排水技術の指導助言 ② 作物栽培技術の指導助言	① 計画打合せチームの派遣 時期； 7月中旬より2～3週間 員数； 3名 目的； 実施調査結果の説明、協力計画の協議
オーストラリア	農業研究 (協定交渉中)	5年間 { 50年6月 } { 55年6月 }	未定	米の安定的増産および果樹園芸生産の振興に資するため次の協力を行う予定である。 ① 稲作主要病害虫の発生予測法の確立に関する研究（イネシントタマバエ、メイ虫、ヨコバイとウイルス病、稲白葉枯病） ② 果樹園芸に関する研究（落葉果樹、かんきつ類、野菜の種子（一代雑種））	① 計画打合せチームの派遣 時期； 未定 員数； 3名 目的； 協定締結にあたり今後の協力方針等についての打合せ
カペル	水産加工センター	3年間 { 50年4月24日 } { 53年4月23日 }	本年度内に3名派遣の予定	ペルーの水産を振興するためセンターにて次の協力を行う。 ① 水産加工技術の訓練 ② 水産加工機械の訓練 ③ 水産物流通の訓練	

2. 50年度の調査計画

(1) 農業協力を対象とする調査

区 分	予算額	内 容
(1) 農業協力を対象とする調査	目的 276	
ア. 事前調査	20	<p>(ア) 中南米地域プロジェクトファイディング調査</p> <p>協力対象国の拡大に伴い、前年度は、中近東地域、東洋アジア地域（タイ及びインドネシア）について調査を行った。本年度は引き続き中南米地域での協力の可能性を検討するための調査を行う。</p> <p>イ) 予備調査</p> <p>⑦ サウジアラビア農業開発</p> <p>49年度に実施したプロジェクトファイディング調査結果に基づきハラード地区及びアル・ハルジ地区について、さらに自然社会経済条件等の調査を行い、協力の基本構想を策定する。</p> <p>⑧ タイ農業開発</p> <p>49年度に実施したプロジェクトファイディング調査結果に基づき、さらに詳細な調査を行い、タイ、中央、平野部に</p>

区 分	予算額	内 容
	目的	<p>における協力の基本構想を策定する。</p> <p>⑨ インドネシア、南スラウェシ農業開発</p> <p>48年度に実施した「総合開発計画調査」の報告により、テンベ湖周辺の農村開発に協力する方針で、地区の自然社会経済条件等の調査を行い、協力の基本構想を策定する。</p>
イ. 実施計画調査	22	<p>(ア) フィリピンカガヤンバレー農業開発</p> <p>開発調査事業が49年度に実施した「総合開発計画調査」及び50年度に実施を予定している「農業総合開発計画」を受け、この調査を行い協力の実施計画を策定する。</p> <p>(イ) インドネシア南スラウェシ農業開発</p> <p>本年度実施する事前調査の結果を受け、更に詳細な現地調査及びインドネシア政府との協議を行い協力の実施計画を策定する。</p> <p>(ウ) インドネシア農業開発</p> <p>48年度の前記調査、49年度の計</p>

区 分	予算額 百万円	内 容
ウ. 実施調査	103	<p>面打ち合せの結果により3名の長期調査員が派遣され、現任、同調査員開発のマスタープランを作成中である。このマスタープランが作成された時点で本調査団を派遣し、協力の実施計画を策定する。</p>
		<p>(ア) フィリピンカバヤンバレー農業開発 前記の本国実施予定の実施計画調査の結果に基づき、協力地区の土地、建物、その他構造物について測量、設計を行う。</p>
		<p>(イ) インドネシア南スマラウエシ農業開発 前記の本国実施予定の実施計画調査の結果に基づき、協力地区の土地、建物、その他構造物について測量、設計を行う。</p>
		<p>(ウ) インドネシアウンジャノンゾブアン農業開発 この計画は、インドネシア政府が、O.E.C.D. の借款により農業水利事業を行っている地区内に農業普及センターを設置するものであり、土地、建物、その他構造物について測量、設計を行うとともに、インド</p>

区 分	予算額 百万円	内 容
エ. 巡回指導	27	<p>ネシア政府と協議を行う</p> <p>(エ) タンザニアキリマンジェロ農業開発 現任、予備協力として試験研究、水資源開発調査、農業調査を実施中であり、これらの結果に基づき、協力の具体的な計画を策定するため、この本調査を行う。</p>
		<p>次の5プロジェクトの実施上の問題点の把握と解明、技術の指導、助言及び現地専門家等の専門分野外技術の補完のため巡回指導調査団を派遣する。また、農業土木、栽培分野について、各プロジェクトに共通した技術的問題点を解決するため、特に関係の多いプロジェクトを選定し巡回指導を行う。</p> <p>(ア) ブラジルリバイラ農業開発 (イ) タンザニアキリマンジェロ農業開発 (ウ) バンブラディッシュ中央農業普及研究所 (エ) インドネシアランボン農業開発 (オ) タイ農業開発 (カ) 農業土木分野 (キ) 栽培分野</p>

区 分	予算額 百万円	内 容
ホ. 計画打合せ	15	次のプロジェクトの協力の開始又は終了等とともに相手国政府と協力の計画及びプロジェクトの運営等について打合せを行う。 (ア) 韓国農業研究 (イ) インドネシア農業開発 (ウ) ラオスラオゴン農業開発 (エ) インド農業開発 (オ) ブラジルリ・マイライ農業開発 (カ) タイ農業開発 (キ) インドネシア農業開発
カ. エバリュエーション調査	39	協力の協定が今年度満了となる次のプロジェクトについて、これまでの事業内容の効果測定を行い、実行協定期限後の措置について検討するとともに、将来のプロジェクト協力の実施の改善の一助とする。 (ア) インドネシア農業開発 (イ) インドネシアプロジェクト (ウ) ヴィエトナムカントー大学農学部 (エ) マレーシア稲作機械化 (オ) スリランカデワッワ村落開発 (カ) インド農業普及センター (キ) インドネシア農業開発

区 分	予算額 百万円	内 容
キ. 基礎調査	50	(ア) 計画基準作成調査 49年度は農業水利計画基準を作成したが本年度は、農業機械の計画基準を作成する。このため、資料収集等を行う調査を実施する。 (イ) 開発基礎調査 中近東地域よりの協力要請の増大とともに、同地域での農業開発の手法を調査、研究する。 (ウ) 開発実態調査 先進国で行っている農業協力のプロジェクトの実態及び問題点について調査、研究を行うためアメリカ、カナダ及び協力国の中南米地域に調査団を派遣する。 (エ) 現地研修調査 熱帯農業専門家研修機関を研修機関を前拓するため、49年度の東南アジア地域に引き継ぎ、本年度は中南米地域に調査団を派遣する。

2) 府院技術協力事業関係調査

区 分	予算額	内 容
(2) 府院技術協力 事業関係調査	百万円 103	
ア. 事前調査	35	<p>(ア) フィリピン飼料作物開発 この事業は、ミンダナオ島の可耕地を対 象とし、大豆、ソルガム等の輸 出商品作物の開発を図るものであり、フィ リピン政府との協議、現地調査を行い、協 力の基本構想を策定する。</p> <p>(イ) インドネシア浅海養殖開発 この事業は、インドネシアの沿岸にて貝 類を中心とする浅海養殖技術の改良、開発 を行うもので、本年度は、インドネシア政 府との協議、現地調査を行い、協力の基本 構想を策定する。</p> <p>(ウ) メキシコ畜産開発 この事業は、メキシコ北西部の広大な未 利用草地における畜産を振興するものであ り、本年度は協力の基本構想を策定するた め調査団を派遣する。</p>

区 分	予算額	内 容
	百万円	<p>(エ) フィリピン木材加工開発 この事業は、造林技術の改良普及、未利 用樹木の有効利用と木材加工技術の改良、 普及を行うものであり、協力の基本構想を 策定するため調査団を派遣する。</p> <p>(オ) その他(鉱工業開発案件) 3件</p>
イ. 実施計画調 査	14	<p>(ア) タイとうもろこし開発 この事業はとうもろこし研究の進捗、 機械化センサーの設置、普及組織の育成へ の協力が中心で、47年度に実施した事前調査 の結果に基づき、協力の具体的な計画を策定 するために、この調査を行う。</p> <p>(イ) マダガスカル畜産開発 この事業は水利施設や家畜衛生施設の設 置、牧草の改良、品種改良を行うもので、 48年度の事前調査の結果を踏まえ、協力の具 体的計画を策定するために調査を行う。</p> <p>(ウ) その他(鉱工業開発案件) 1件</p>

区 分	予算額	内 容
ウ. 実施調査	42	<p>(ア) ブラジルー次産品開発 この甘藷状豆、とうもろこし、ソルガムの生産及びこれらの農産加工品の振興を図るものであり、44年度の事前調査の結果を役付、この実施調査団を派遣し、協力計画を策定する。</p> <p>(イ) マダガスカル畜産開発 前記の実施計画調査を実施した後、その結果に基づき、土地、建物、その他構造物について測量、設計を行う。</p>
エ. 巡回指導	10	<p>次のプロジェクトに巡回指導調査団を派遣し、問題点の把握と説明を行う。</p> <p>(ア) シイー次産品開発 (イ) タイとび養殖開発</p>
オ. 計画打合せ	2	<p>(ア) マダガスカル畜産開発 協力の開始にあたり、マダガスカル政府と協力計画及びプロジェクトの運営等について打合せを行う。</p>

3) 開発調査事業関係調査

区 分	予算額 百万円	内 容
(3) 開発調査事業関係調査	190	<p>農林水産関係の開発調査実施候補条件として次のものが検討されている。</p> <p>ア. 事前調査 (ア) ベルー農産開発 (イ) インドネシアイリアン林業開発</p> <p>イ. 実施調査 (ア) インドネシア、ラレム、アブ・ハンガ い計画 (イ) ベルー漁業基地 (ウ) ガーナ農産開発 (エ) フィージン林業開発 (オ) 北イェメン農産開発</p> <p>ウ. 資源調査 (ア) メキシコ、スリランカ、フィリピン海 洋資源開発</p>

(4) 南米協力の事業調査

区 分	予算額	内 容
(4) 南米協力事業調査	564 292	
ア. 南米基礎調査	159	
イ. オノ次調査	24	次の5件について調査を行い、協力の地区を選定を行う。 ① スリランカ農業開発 この事業は、スリランカ中部地区を開墾し、大豆の生産体制の確立、流通の改善を行うものである。 ② 北ヴェトナムとうもろこし開発 この事業は北ヴェトナムのルフガン県の未開墾地を対象に農地造成、土壌改良を行い、とうもろこしの生産を図るものである。 ③ ブラジルバレン地帯森林造成 この事業は、伐採跡地、焼畑跡地での有用広葉樹（合板用、紙用等）の森林造成である。

区 分	予算額	内 容
	104	④ エンアドル農業開発 この事業はブラカス川の低平地でのソルガム、綿花輸出農産物の生産の拡大を図るものである。 ⑤ インドネシアコマビナン森林造成（実施済） この事業は森林資源の増産、造林技術の確立等に資することを目的に、コマビナン地区に森林の造成を行うものである。
イ. オノ次調査	155	次の7件について自然、社会、経済条件等の現地調査及び相手国政府等との協議を行い、協力基本前提を算定する。 ⑥ エンアドル農業開発 本年度実施予定のオノ次調査の結果に基づき、さらに詳細な調査を行う。 ⑦ コロンビア農業開発 この事業はセリルバレーにおいてとうもろこし、ソルガム等輸出農産物の増産を図るものである。

区 分	予算額 百万円	内 容
		㉞ マダガスカルアントニーベ畜産開発 この事業は牧野造成を行い、肉牛の改良、増産、肥育場を一貫して実施するものである。
		㉟ メキシコ北部農業開発 この事業はメキシコ北部の未墾地の開墾を行い、畜産開発のための飼料生産基地の整備を行うものである。
		㊱ フィリピンパンタバンガ：森林造成（実施済） この事業は、熱帯木地を対象に森林造成を行い国土の保全、木炭産の増産を図るとともに木材生産拠点を形成するものである。
		㊲ パプアニューギニア森林造成 この事業はマダニ地域タラウを対象に行う森林造成事業である。
		㊳ インドネシアコタピナ：森林造成 本年度実施予定のオーストラリア調査の結果に基づき、さらに詳細な調査を行う。

区 分	予算額 百万円	内 容
イ. 開発計画調査	103	次の4件について、さらに詳細な現地調査を行い、実施計画を策定する。 (ア) ブラジルヒラード地域農業開発 この事業は、広大なヒラードを対象に土壌改良を行い、とうもろこし、ソルガム、大豆等輸出品物の増産を図るものである。 (イ) タイとうもろこし開発 この事業はとうもろこしの増産を目的に、模範農場に対し、かんがい施設の整備、新しい営農方式の導入を図るものである。 (ウ) フィリピンパンタバンガ：森林造成 本年度実施予定のオーストラリア調査の結果に基づき、さらに詳細な調査を行う。 (エ) パプアニューギニア森林造成 本年度実施予定のオーストラリア調査の結果に基づき、さらに詳細な調査を行う。
ウ. 投融資審査 等調査	30	事業国の投融資を希望する事業を審査するため、13ヶ国を派遣する。

3. 50年度の技術指導事業計画

(1) 民間企業技術指導事業

昭和50年度の民間企業技術指導事業は、アフリカ、ガイールのとうもろこし栽培、インドネシアの林業等5件（有償2件、無償3件）を対象に30名（1件当たり3名）技術者派遣を予定する。

(2) 現世産技術者等研修

昭和50年度の現世産技術者研修は約30名の現世産技術者等を受入れ、各2ヶ月間の研修を予定する。

4. 50年度の専門技術養成事業計画

ア. 専門家の登録

- (ア) 登録予定人員 100名
- (イ) 対象分野 畑作及び林業分野
- (ウ) 選考方法 一次書類選考
二次面接
- (エ) 登録事務 登録決定者について、カードを作成して保管する。

イ. 専門家の確保 農林業関係協力事業に必要の専門家20名の確保を行う。

ケ. 専門家の養成

(ア) 長期研修

研修項目	研修国名	研修機関名	研修期間	備考
(新 規)				
農業土木	アメリカ	ネバダ大学砂漠研究室	50.7.1~52.6.30	
畜産	オーストラリア	英連邦科学産業研究所	"	
油糧作物	マレーシア	オイル パーム "	"	
林業	アメリカ	熱帯林業研究所	"	
林業	フランス	"	50.6.1~52.5.31	
農業土木	オランダ	国際土地開発改良研究所	50.4.9~52.4.8	
畜産	オーストラリア	英連邦科学産業研究所	52.4.9~52.4.8	

(1) 中期研修

研 修 名	研修員数	研修期間	備 考
造林業中級コース (専任分野 林業・土 木一般)	30名	50.5.20 5 7.30	国家公務員 10名 地方公務員 10 民間 10 } 30名
造林業上級コース	20名	50.9.10 5 11.21	国家公務員 10名 地方公務員等 10名 } 20名 民間 10名

ε
ε

ε
ε